

2012年度ロンドン研修レポート

ロンドンで会おう 世界の人々！！

本学では例年、海外研修を実施しています。

今回の行き先は、イギリス ロンドン。学生の専門性に合わせた施設の視察や、異文化体験を目的としています。リハビリテーション施設「ボバーズセンター」や老人福祉施設、子育て子持ち支援政策施設などを訪問したり、ロンドンやオックスフォードの市内観光にも訪れます。

研修期間

2013年3月23日（土）～3月29日（金） 7日間（5泊7日）

滞在都市

イギリス（ロンドン）

参加人数

9名

同行教員

中部学院大学 子ども学部 山田丈美 准教授

中部学院大学リハビリテーション学部 千鳥司浩 准教授

研修日程

	月日	都市	時間	スケジュール
1	3/23 (土)	中部発 ソウル発 ロンドン着	07:50 13:10 16:20	中部国際空港→ソウル・インチョン空港【2時間5分】 インチョン→ロンドン・ヒースロー空港【12時間10分】 ロンドン着後、ロンドン市内へ【ロンドン泊】
2	3/24 (日)	ロンドン オックスフォード	終日	オックスフォード日帰り見学【ロンドン泊】
3	3/25 (月)	ロンドン	終日	イギリス医療施設の視察 ロンドン市内見学【ロンドン泊】
4	3/26 (火)	ロンドン	-	イギリスの子育て子持ち支援施設訪問とレクチャー 社会福祉施設 高齢者向き小規模集合住宅見学【ロンドン泊】
5	3/27 (水)	ロンドン	終日	各自、自由研修フリータイム【ロンドン泊】
6	3/28 (木)	ロンドン発	朝 夕方	出発まで各自フリータイム ヒースロー空港へ

			20:05	ヒースロー空港→インチョン空港【所要時間 10 時間 55 分】
7	3/29 (金)	ソウル着 ソウル発 中部着	16:00 19:00 20:50	ソウル到着後、乗換【所要時間 1 時間 50 分】 中部国際空港着後、解散

2012 年度ロンドン研修レポート vol.1

3月23日、学生9名と教員2名の計11名が、ロンドン研修に向けて中部国際空港を出発しました。韓国仁川空港での乗り継ぎも順調にいき、無事ロンドンに到着しました。ただ到着が大幅に遅れて、そのままホテルに直行となりました。

明日から本格的な研修となります。

1日目のことも含め、明日からは学生が中心となって、その様子を報告いたします。

(引率教員 山田)

1日目：3月23日（土）

ロンドン研修がついに始まりました。

集合場所は中部国際空港であり、時間までに間に合うかと心配しましたが、無事みんな集まることができました。

最初に搭乗券を受け取り、出国手続きのボディチェックを受けました。ベルトや靴の金具の影響で、再検査をされた人もいました。しかし無事通過することができました。

出国ロビーでは、思っていたよりも多くの国の人が集まっており、国際的な雰囲気がありました。

韓国で乗り換えた後、ロンドンまで12時間という長い時間を飛行機で過ごしました。

1時間遅れでロンドンについて入国手続きのとき私だけまた、ハプニングがあり、一瞬不安になりました。しかし、先生に助けってもらって無事入国できました。



ロンドン是非常に寒いです。日本でいう真冬です。非常に長い一日で、ホテルに着いた時は、みんな疲れて眠たそうでした。これで一日目終了です。

(報告者：人間福祉学科 星、理学療法学科 廣瀬)

2日目：3月24日（日）

2日目はオックスフォードの見学をしました。

オックスフォードは大学がいたるところにある有名な都市です。一番古いものでは約800年前のものもありました。

オックスフォード大学の学生は最低1日7時間、勉強することが普通であるとガイドさんに聞き、驚きました。私たちも見習わなければならないな、と思いました。クライストチャーチには、有名な人物の手

によるステンドグラスが多くあり、とても荘厳に感じました。



また、オックスフォードはハリーポッターの撮影地としても有名です。食堂や医務室などは行事により、しっかりと見ることは出来ませんでした。その撮影現場に行けたことだけで非常に興奮しました。自由時間は、オックスフォード大学のパーカーをみんなでお揃いで買いました。とても充実した 1 日でした。

(報告者：理学療法学科 松尾、人間福祉学部 古橋)

2012 年度ロンドン研修レポート vol.2

3 日目：3 月 25 日（月）

3 日目はボバースセンターというリハビリテーション施設を見学しました。

ボバースセンターでは、ボバース法に基づき中枢神経系障害の患者を対象に治療を行う施設でした。従来は中枢神経障害により生じる麻痺に対し患側の筋力を増強するという方法を行っていましたが、ボバース法では逆に筋肉を弛緩させるという治療を行っていました。また、この治療法の特徴として理学療法士および作業療法士は従来の職域を越え、両セラピストが主目標に向かい共通した治療を行っていました。治療の際には、家族の方が同席し音楽や器具などを使用するなど患者さんをリラックスさせる工夫が施されていました。家族の方を治療に関わらせる理由は、本来のリハビリ後にも自宅において治療を継続することのできるようにするためでした。このように、家族の方を巻き込んだ治療を行っていることもこの施設の特徴でした。その際、家族に対し治療方針を専門的な用語で説明しても理解することは難しいため、セラピストは専門用語を噛み砕き分かりやすく伝える事が大切だと思い、今後大学で講義される内容をきちんと理解し、自分自身の言葉として表現できるように努めて行こうと感じました。さらに今後ボバース法については大学の講義の中でも触れることになるので、個人的にも詳しく学んでいきたいです。

（報告者：理学療法学科 南谷）



2012 年度ロンドン研修レポート vol.3

4 日目：3 月 26 日（火）

研修 4 日目の今日は、ホテルからバスで 1 時間ほどの場所にある子育て子持ち支援センター「ザ・ファクトリー・カンパニー」を訪問しました。

この施設は、日本の子育て支援センターと違う点がいくつかありました。まず、利用できるのは、6 か月から 5 歳までの子どもたちであることです。この施設は無料で利用でき、1 日 2 時間、さまざまな人が利用します。人種差別もなく、お金持ちの家庭から貧しい家庭の親子が利用しています。また、おもちゃの貸し出しセンターという役割も担い、無料で借りることができます。施設は美しくセキュリティーも万全でした。帰りに施設の方々からお土産として頂いた、絵本、スケジュール帳、ペンは、帰国後、大切に使用させて頂きたいと思います。

この施設の人種・国籍、貧富の差、障がいの有無を越えた子育て支援の在り方を、今後、日本での保育実践につなげていきたいです。

（報告者：幼児教育学科 加藤）

今日の午後に高齢者施設を訪問しました。施設の方々は私たちが温かく歓迎してくださり、施設の歴史や方針についてとても丁寧に説明してくださいました。その後利用者さんのお部屋を見せていただいたり、施設内の見学をさせていただいたりしました。施設内にはジムや美容室や売店などが設置されており、日本の施設の状況とは大きく違うことにとっても驚かされました。施設ではこのように利用者の方々が不自由なく幸せな生活を送るための配慮や設備が滞りなく施されていました。

ロンドンではこのような質の良い高齢者施設がスタンダードになってきているというお話も伺い、改めて国による福祉の運営状況の違いを感じさせられました。しかし、利用者の方々の幸福を運営の基盤としているという点では国境を越えても同じなのだと思います。

（報告者：子ども学科 栗虫）



2012年度ロンドン研修レポート vol.4

5日目：3月27日（水）

5日目は自由研修で、ロンドンの中心部であるピカデリーサーカスやベイカーストリートに行きました。そこにはシャーロックホームズの銅像といった有名なものやデパート・商店街があり、とても賑やかでした。特に、街中にはユニオンジャックや衛兵が描かれているものや、花柄などカラフルなものが多く、洗練されたデザインにあふれた国だということを感じました。

そのほかに地下鉄も利用し、行き先によって改札の場所が分かれていることを知り、困ってしまうこともありました。また、街並みや建造物、横断歩道や信号の形も日本とは違い、文化の違いを改めて学びました。

（報告者：子ども学科 長柄）



2012 年度ロンドン研修レポート vol.5

6 日目：3 月 28 日（木）

研修のメインである施設訪問に続き、自由行動も充実したものになりました。

オックスフォード、ロンドン市内の観光はもちろん、イギリス医療施設のボバースセンター、子育て子持ち支援政策施設、社会福祉施設シェルタードハウジングの訪問を通してイギリスの文化や考え方を知り、日本との大きな違いはやはり、人種の多さだと改めて感じました。多文化という事で価値観の違いやニーズの違いも幅広く、そこに多民族国家ならではの支援の難しさと工夫、素晴らしさを学びました。これからグローバル化が進む日本でも、支援者に必要になってくる力のひとつだと思いました。

7 日間という短い間でしたが、貴重な体験をする事が出来ました。今回学んだことを各自の今後の学業に生かしていきたいと思います。

（報告者：子ども学科 鳴村）

